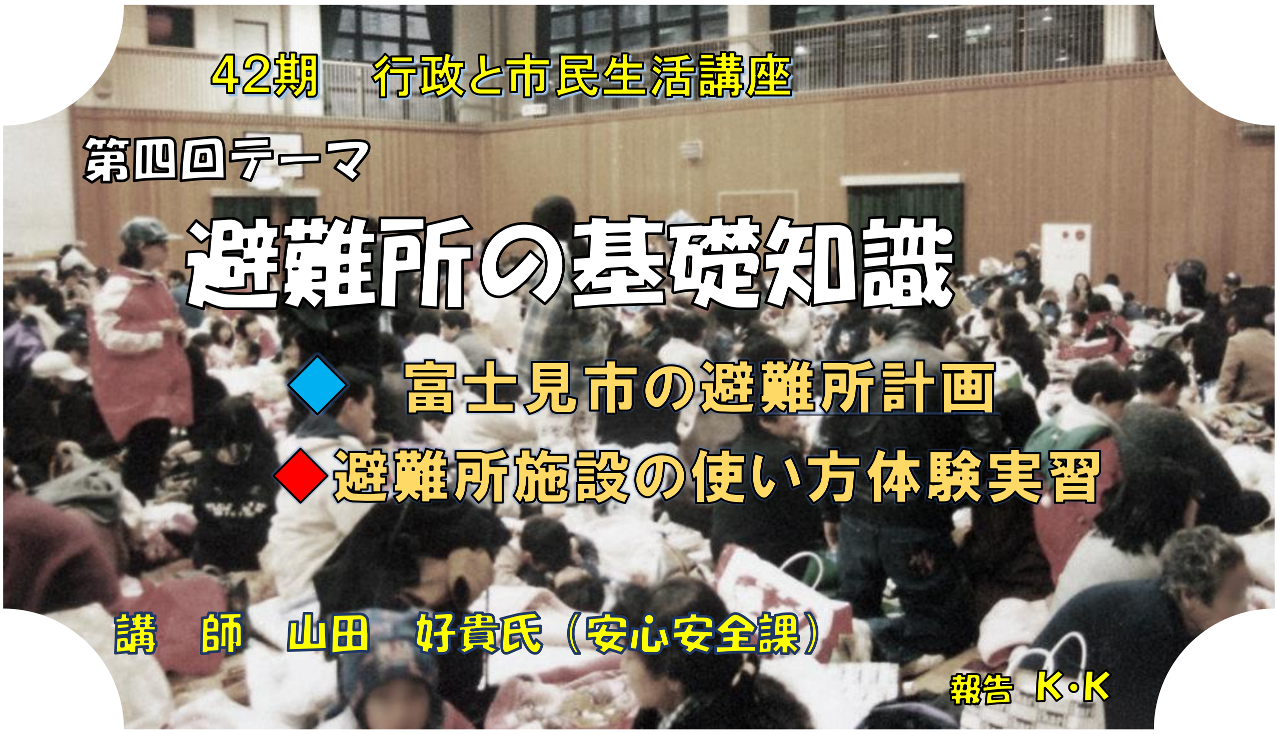

期日　　　９月１４日
時間　　　午後１時３０分～３時３０分
会場　　　水谷公民館　講座室
講師　　　山田　好貴氏　安心安全課
受講生数　７名

第４回　　避難所の基礎知識

・富士見市の避難所計画
・ワークショップ避難所施設の使い方
　体験実習（トイレ、テント組み立て、間仕切り作成）

1．富士見市の避難所について

① 市内の小中学校施設を中心に３１か所、相互協定を結んでいるふじみ野市大井小学校、大井東中学校も含まれる。
② 相互協定は三芳町、志木市、ふじみ野市と締結。苗間地区住民は合同訓練にも参加している。
③ 避難所開設　地震では５弱以上で対策本部の開設をし、地域の担当職員が学校施設の鍵開け、出勤した学校職員とともに活動。
④ 学校施設へ避難された市民を体育館、体の不自由な方は特別教室へ移動の場合もある。

⑤ 福祉避難所　学校施設に避難後、指定された施設に移動。対応できる環境で安心して過ごしてもらう。

2．避難所生活の心得について

① 生活ルールの作成
② 役割分担で運営に参加
③ 健康や衛生の管理　エコノミークラス症候群の予防
④ 食品アレルギー対策　自ら日常的に備蓄管理をし、周囲に知らせ理解してもらう
⑤ ペットのしつけ、予備のペットフード、ゲージの準備
⑥ 高齢者、障がい者への配慮、出入りのしやすい場所の確保
⑦ 女性と連携して、いろいろな目線で運営に生かす
⑧ 犯罪に気をつける

3．避難生活

在宅と避難所への避難がある。

　在宅の場合、平常時に備蓄していた食料、飲料水、携帯トイレ等を準備、ローリングストック法による食料、日用品の備蓄。３日から１週間分を確保

　避難所生活では、ストレス、疲労から体調を崩す可能性が出てくる。
避難生活者同士で協力して支えあうことが大切です。

4．備蓄品について

　１避難所当り、避難者の想定は１９１５人×１．５倍、帰宅困難者については３９３１人。（県地震被害想定調査に基づく人数）
　特に、在宅避難者は備蓄品の管理が大切です。防災ガイドブックを参照

5．日頃からの備えについて

浸水への事前準備．大雨に備えて自宅周囲を点検、簡単な土嚢の作り方（ごみ袋やシートを利用）

6．実際に体験訓練、段ボール間仕切りを作ってみよう

　スーパーマーケットでもらった段ボールを使い、カッター、ガムテープで４０㎝から８０ｍ位の高さの間仕切りを作成。
簡単にできて、実際に横になると安心感がわくのは驚きでした。
ブルーシートを敷いて、３～４人が間仕切りで夜を過ごすのはストレスが大きいと実感しました。
　地域ごとに小学校の体育館を使い宿泊、炊き出しを実際に体験してみることが大事です。

質疑応答

・いざ自主避難しても避難所に入れない場合が想定されるがどうなのか
　　鍵ボックス設置の実施を予定している
・大規模な停電について対処は　千葉の被災地で停電が続いているが、富士見市では
　　危機管理で検討。復旧には東京電力、電力供給車、避難所には発電機を設置する
・ふじみ野地区の避難所にピアザふじみを入れてほしいが
　帰宅困難者の一時避難場所として想定。指定避難所としては多人数を受け入れ可能な広さが必要
・自主防災組織の未結成地域への市としての働きかけは
　特にふじみ野地区は、町会・地区社協すら結成されていない。また住民の避難所が少ないところで不安
　　公助の部分で、自主防災組織が結成しやすいように働きかけ、支援をしている
・避難要援護者の個別計画について。民生委員ひとりで３３人の対象者
　を抱えている方がいる。いざ災害時、どう避難してもらうか、個別計画が必要では
　　安心安全課１課では答えられない。多くの課が関わる課題で、市は人命を守るために最大限努力をしている。

　なお、黒字で受講生の質問、青地で回答を記載。文責は加藤

その他にも質疑がありました。
　地域によってはそれぞれ課題が違い、地震、洪水・内水、土砂災害など自分の住む地域の特性を知ること。自宅の耐震性、危険性を点検するなども合わせて教えられた。
　今日の講座では繰り返し防災訓練を体験する必要を感じました。

われもの注意

われもの注意